

科名 外科
対象疾患 HER2陽性乳癌
プロトコール名 フェスゴ+DOC2回目以降

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	21
1	皮下注		フェスゴMA	10mL	大腿部に5分以上かけて 初回忍容性良好であれば投与後15分経過観察	↓		
2	点滴注	メイン	生理食塩液	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓		
3	点滴注	側管	デキサート	6.6mg	30分かけて	↓		
			生食	50mL				
4	点滴注	側管	ボララミン	5mg	30分かけて	↓		
			生食	50mL				
5	点滴注	側管	ドセタキセル	75.70.60mg/m ²	60分かけて	↓		
			生食	250mL				

★1クール＝21日

～MEMO～

催吐レベル2(10%以上30%未満)

<フェスゴ>

痩せている等、皮下組織が少ないまたは下肢浮腫により大腿部への皮下投与が難しい患者はベルツズマブ、トラスツズマブの点滴静注の投与を検討

6週以上投与間隔が空いた場合はフェスゴINから投与する。

投与部位は大腿のみ(トラスツズマブ皮下製剤の試験において腹部に比べ大腿への投与のほうがバイオアベイラビリティが30%高かったとの報告がある。)

<ドセタキセル>

デカドロン1回4mgを1日2回3日間服用(浮腫等の副作用予防)

調製時、完全に溶解、混和したことが確認できるまで緩やかに混和操作を繰り返すこと。

初回、二回目まではアレルギーの出現に注意。

投与開始から10分間はベッドサイドを離れない。

自然落下方式で投与する場合、輸液セットに表示されている滴数で投与速度を設定すると、目標に比べ投与速度が低下するので、滴数を増加させて設定する等の調整が必要である。

滴下制御型輸液ポンプを用いる場合は、流量を増加させて設定する等の調整が必要である。